

過疎地域・産業振興プロジェクト 産業振興・起業支援グループ

もの・サービスづくりの技術開発・移転による 産業振興・地域創生

■ 国際連携による ものづくり実践教育プロジェクト

ものづくり教育実践センターは、将来の技術立国を担う創造性豊かな人材の育成に役立つことを目的に平成16年に工学部附属施設として設置されました。充実した工作設備と技術職員のスキルを活かしたものづくり教育を展開するとともに、研究教育装置の開発等を通して培った知見やスキルを学生教育に還元しています。センターの主な業務内容は、ものづくり教育の企画・支援・実施、教育・研究用装置などの作製支援、ものづくりを伴う学生課外活動の支援、地域におけるものづくり教育およびものづくり技術の支援です。特色ある取り組みとして、ものづくり型PBL (Project Based Learning) 教育プログラムの開発と実施、理想的なAL (Active Learning) である「自主的なものづくり活動」の支援を行っています。

当プロジェクトの目的は、ものづくり実践教育を通じたグローバルで人間力の高い人材の育成、開発途上国への貢献です。このため、本学学生を対象としたグローバルでリアルな問題を題材としたものづくり実践教育プログラムの構築、および開発した教育プログラムを開発途上国にて展開し、問題解決人材育成のモデルの構築を行います。



ジョモ・ケニヤッタ農工大学において開催した創造性教育に関するセミナー

■ ジョモケニヤッタ農工大学との連携による ものづくり実践教育プロジェクト

当プロジェクトではジョモケニヤッタ農工大学 (Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology, JKUAT) は、日本からの政府開発援助お

よび技術協力によって実学に強い大学として成長しています。本学もその発展を支援し、平成23年には学術交流協定を締結しました。JKUATはさらに汎アフリカ大学の東部拠点として「科学技術イノベーション」を担当し、平成26年よりJICAの「AFRICA-ai-JAPAN Project」より支援を受け、産業人材育成の拠点整備を開始しました。本学ものづくり教育実践センターに相当する拠点 (iPIC) の設立を計画しており、平成26年8月に本学に視察にこられました。iPICの設立および当プロジェクトに関して密接な協力関係を構築することとしています。

本プロジェクトはJKUATとの連携のもと、開発途上国(特にケニア)の社会問題解決をテーマとしたものづくり型PBL教育を、工学部専門科目「ものづくり実践プロジェクト」として実践します。本年度は、JKUATからの留学生ムトゥア氏、研修生マニアフ氏らの協力のもと「動物資源(鹿の角)を活用した製品開発」「開発途上国の課題解決のための製品開発」を行いました。また、この実践を通して、開発途上国の問題解決に適した問題解決プロセスおよび人材育成教育プログラムを開発し、JKUATイノベーションセンターにおける展開を目指します。



ものづくり実践プロジェクトの様子①



ものづくり実践プロジェクトの様子②



【海外ネットワーク】ケニア(ジョモ・ケニヤッタ農工大)

過疎地域・産業振興プロジェクト
産業振興・起業支援グループ

三浦政司 Masashi Miura

【所属】工学部附属ものづくり教育実践
センター 助教

【専門】制御工学、マルチエージェントシ
ステム、創造性教育